

(公財)しずおか健康長寿財団 令和元年12月 はつらつネットふじのくに会員事業 「金冠山ウオークと戸田塩づくり体験」に参加しました。

今回は、「自然と歴史」をテーマにした研修旅行です。自然を堪能しつつその地にゆかりのある歴史・文化を学べる絶好の機会と心躍らせバスは進みます。

静岡発のバスは、三島駅で東部の参加者を乗せ三津海岸を走り真城峠を越えAM10:15に目的地の戸田御浜に到着しました。



ディアナ号錨



ハダ号

戸田の外海は、西風が強く白波がたっていました。そこから見える富士山の眺望は今季最高で、駿河湾の上に浮かんでいるかのように見え、バス移動の疲れを風と共に吹き飛ばしてくれました。

海岸沿いの駐車場から沼津市戸田御浜の松林の中を進むと「戸田造船郷土資料博物館」と「駿河湾深海生物館」が私たちを迎えてくれました。

「戸田造船郷土資料博物館」には、1/10に縮尺された日本で初めて建造された洋式帆船「ハダ号」が展示されており、私たちの目を引き付け江戸安政の時代にタイムスリップさせてくれました。

建造のきっかけは、日露和親条約を締結するために下田港に入港していたプチャーチン提督率いるロシア軍艦「ディアナ号」が、安政東海大地震に見舞われ大津波で破損し、航行不能となって修理のために戸田港に曳航されましたが、途中大時化で船は流され富士郡宮嶋村沖(現富士市)で沈没し、乗組員が帰国するための船が必要となりました。そこで江戸幕府の許可のもとロシア人の設計図を基に日本人の船大工が加わり短期間で「ハダ号」を建造する過程を、専属学芸員が詳しく説明していただき江戸時代末期 日本最初の洋式帆船建造技術を修得した船大工が誕生し、この人たちが日本の造船業を背負って立つ立派な人となったと聞きました。



駿河湾深海生物館



高足ガニ

また隣接する「駿河湾深海生物館」に於いては、日本一深い駿河湾の深海魚や深海ガニの標本・はく製など300種の展示を見ることが出来ました。

特に注目したのが米粒ぐらいの小ガニが3mにもなる高足ガニになる標本を見て驚きました。

楽しみの塩づくり体験



[戸田塩づくり1](#)



[戸田塩づくり2](#)

平成7年に戸田婦人部の皆さんが、村おこしのため世界的有名な塩のあるフランス モンミッシェルの近くグランドへ研修に行き、そこで得た知識をもとに戸田御浜の一角に江戸時代から引き継がれている平釜製法である塩づくりを始めたそうです。

駿河湾沖合から早朝船で汲んできた海水を写真左の平釜で13時間煮詰め塩が出来上がります。今回参加者は、煮詰まった塩を釜からかき出し、ニガリと塩を分離する工程の作業を行いました。戸田塩はミネラルも多く含まれ、おにぎりに使うと違いがよくわかります。



[高足ガニ生け簀](#)



[食事処 かにや](#)

定刻より早く昼食会場である戸田の「かにや」に到着した一行は生け簀に所狭しと動き回る戸田特産の高足ガニを間近で見ることが出来、カニを抱えて写真撮影をする人もおりました。

二階の昼食会場では、海の幸が満載の御膳を囲み美味しく楽しいひと時を過ごすことが出来ました。



[金冠山山頂816m](#)



[登山道を進む一行](#)

歴史探訪・美味しい食事のあとは、美しい景観を誇る金冠山ウオーキングです。

一行を乗せたバスは戸田峠駐車場に到着し、そこから標高816mの金冠山山頂を目指して登山開始です。登山と言うよりもウオーキングと言った方が賢明である比較的平坦が多く、疲れを感じることなく登ることが出来るコースです。



[登山道からの富士](#)



[絶景](#)

山頂に近づくとつれて樹々の合間から白い綿帽子をかぶった富士山がひょっこりと顔を出し、私たちが和ませてくれました。



[山頂にて記念撮影](#)



[山頂から富士を](#)

山頂は360°のパノラマが眼下に広がりみなさんで記念撮影です。中には西方にカメラを向け富士山を撮影する人も多くいました。

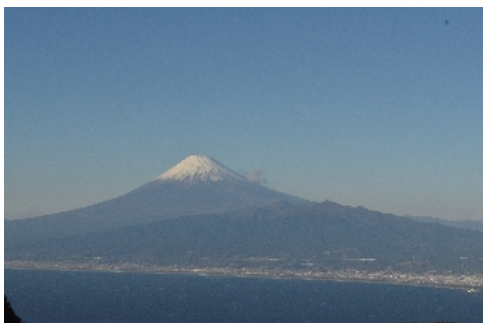


[山頂から下山開始](#)



[芝生の下山道](#)

下山開始です。下山道はレストハウスまでの距離1.5kmあり、芝生の絨毯を敷きつめたようにも見える幅広い富士見コース歩行となっています。馬酔木やマメザクラの木々を見ながら だるま山高原レストハウスに下山していきます。



[達磨山レストハウスからの富士](#)



[富士と駿河湾](#)

だるま山高原レストハウス展望台から眺める富士山(写真左)は何とも言えぬ姿を見せてくれ旅の疲れを忘れさせてくれます。写真右は、富士山を背景にした沼津市の全景が遥か彼方にくっきりと見えています。

今回の研修旅行は「自然と歴史」をテーマにした旅でしたが、その時代の背景からいろいろな出来事や、その土地の人々の営みを知ることが出来、また参加することによってしか味わえない自然のすばらしさを体感できることとなり、今年を締めくくる内容にふさわしい研修の旅となりました。

取材： 富士・富士宮・北駿地区担当生きがい特派員 渡邊英機